

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2472200308		
法人名	医療法人福島会		
事業所名	グループホームあさひ		
所在地	三重県三重郡朝日町大字小向2064番地1		
自己評価作成日	R4年7月19日	評価結果市町提出日	令和4年12月12日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigvosvoCd=2472200308-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	令和 4 年 9 月 26 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体の法人が歯科であるという事もあり、口腔ケア・口腔指導・定期の口腔メンテナンス等には特に力を入れています。また、週に2~3回柔道整復師(マッサージ師)によるマッサージを受けることが出来ており、入居者の方のADLの維持・向上に繋がっていると思っています。また、地域との交流を深めるため、機会があれば町の催しに参加させていただいたり、当ホームで行う行事に地域の方をお招きし、協力してもらったりしています。ただ、コロナ禍の中大きなイベントはなかなか実行出来ない1年でもありましたので、その中でも少しでも入居者の方に満足頂けるように前庭にてお茶会や行事を行うなどして過ごして頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は朝日町の中心部に位置し、建物北側に町立幼稚園、南に町役場・小学校などの公共施設があり、近鉄沿線で駅にも近い場所にあり、新しい住宅地、また、古くからの街並みがあり、田園もあって静かな環境下にある。公道の入り口に併設の有料老人ホームがあり、その奥の建物が1階建て2ユニットのグループホームである。中庭は芝生や家庭菜園・花壇などがある広くてゆったりとしている。この度、事業所内で新型コロナウイルス感染症が蔓延し、かつて経験したことのないことに遭遇した。ほぼ1か月近く、日々、足並みを揃えた職員の徹底した予防策と献身的な介護で、感染した利用者は無事に回復し大事には至らなかった。このことが事業所の今後の大きな自信となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各職員の自己評価を毎月実施し、管理者が確認しており、「ゆっくり楽しく家族のように豊かな生活を送りたい。すべての人にほほえみを」という理念を共有し、実践につなげている。	利用者の気持ちに合わせる支援を心がけている。家族のように接し、笑顔を大事に慌てさせない利用者のペースを尊重した介護に努めている。毎月職員は自己評価を行って、自分の振り返りにつなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民が参加されている社協のイベント等をすすめて頂いていたが、コロナの感染状況により今年も参加の機会がなかった。	コロナ禍が2年続き、諸般の行事やイベントのほとんどが中止となって、つきあいはできない状況であった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の理解を地域の方々に伝える機会や相談に応じる機会を増やしたかったが、町内のイベント自体がコロナ禍の中次々に中止となり、今年もなかなか活動に繋げることが出来ない1年であった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回、運営推進会議に参加し協力いただいている家族様や町役場担当者・社協の職員から、いろいろな意見や案を出して頂いたが、コロナ禍の中でなかなかサービス向上に繋げることが出来なかった。	コロナ禍であっても、運営推進会議は隔月で開催をしている。場所は朝日町保健福祉センターで地域包括支援センター職員、町職員、家族の参加を得て現況報告意見交換をしている。	参加者に地域代表者がいない。地域密着を目指すためにも、自治会長・民生委員・老人クラブ会長等々、地域代表者の参加を得るように期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から電話やメールでも相談させて頂いたりして、良好な協力関係が築けている。関係性も良好で、町全体で認知症の理解を深めていこうという取り組みも出来ている。	町の担当者とはいつでも相談ができています。今後、朝日町内の介護施設事業所間で合同連絡会を立ち上げる検討が始まっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止委員会の開催と、その内容をもとに、身体拘束についてカンファレンスでも正しく理解出来るように話し合っている。玄関の施錠は時間限定ではあるが、開放する時間は設けている。	身体拘束廃止委員会を、管理者・ユニットリーダー・職員・介護支援専門員・顧問のメンバーで、3か月に1回開催をしている。ミーティングで研修も実施し、職員は身体拘束の弊害について理解している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束禁止委員会の議論とその内容をもとに、ケアカンファレンスの際にも、職員の正しい理解と取り組むべきことを考え、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する勉強会や参考資料等で学ぶ機会をもち、ケアカンファレンスの際に、意見交換しながら制度の理解や意識を深められるように取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時十分な説明を行い、理解していただいた上で、書類にサインをもらっている。契約後も家族から疑問があればその都度話を聞き、ご理解頂けるよう説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍により年度末の利用者満足度アンケートは実施出来ていないが、意見箱を常時設置して、匿名でも相談出来る機会を設けている。	家族の面会は窓越しで行い、電話で様子を報告している。家族からコロナ禍で会えないが、好きなものを食べさせてやってほしいなどの要望がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	共有すべき内容はケアカンファレンス時に話し合い、管理者は随時、職員の意見・提案を聞く機会を設けている。	毎月実施している職員自己評価表で、それぞれ職員の思いは管理者やユニットリーダーへ表出している。浴室の改修工事は職員からの希望でもあり、コロナ禍のため延期になっている事案であるが、今後、工事の開始を検討中である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ホーム独自の人事評価表があり、職員個々が常に前向きに取り組めるように努めていると共に、代表者は管理者を通して職場の現状を把握し、職場の環境等の改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、管理者や職員の能力を把握し、法人内外の講演会や研修会の機会があれば、希望するどの職員に対しても随時受けていくよう積極的に進め、向上する機会を与えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他事業所とは定期的に勉強会や行事の手伝いを通じ、交流を持つことでサービス向上のための話し合いの機会としている。他事業所とは、事業所間会議を始めたことで、町内の同業者と交流する機会が出来、サービスの向上に繋がる取り組みが出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居当初は入居における不安や混乱がないよう、ご本人のペースに合わせてゆっくり時間をかけ、ご本人の要望を傾聴し、徐々に信頼関係を築いていけるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時には、ご家族の実情や要望等を十分に聞くことで、問題点の洗い出しや、不安解消につなげる努力をしている。また、入居直後の環境の変化による混乱がないよう家族といつでも相談しあえる体制を整えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する段階で、ニーズを把握出来るようにご本人・ご家族から可能な限り話をお聞きし、環境の変化による精神的不安や負担を軽減出来るよう努め、本人と家族がその時に必要としている支援を行えるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしを共にするという関係性を大切にし、入居者の性質や好みも尊重しながら、一緒に洗濯物たたみをしたり、食事作りや後片付けの手伝いをしてもらったりして支えあう関係性づくりを築けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の日常の様子は家族の面会時や電話にてお伝えし、心身の変化がみられる時は常に連絡する等、相談できる関係が築けている。日頃から本人と家族の絆を最優先し、共に本人を支えていくという関係性を築けるように常に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍でなかなか交流が持てないという事もあり、日常会話の中でコミュニケーションを深めたり、電話での家族との会話等、気兼ねなく行えるように支援している。	コロナ禍前のような交流はできない状況が続いているが、家族へ電話をしたいと希望する利用者にはつなげている。朝日町は比較的小さい町でエリアも広くなく、グループホームへ見学に見えた方と知り合いということもあった。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃からユニット間での行き来もあり、季節の行事・誕生日会や日々の体操などホーム内全体の入居者間の関わりは多くある。今後も入居者同士の関係が良好な形で継続して支援に努めていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された入居者や家族も、関係性は大切にしつつ、希望があれば関わりをもち、法人内の介護付有料老人ホームに転居された方に対して、引き続き、本人・家族との関わりを大切に、必要に応じて相談や支援に応じている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の普段の会話や表情から、本人の思いや考え、希望等をくみ取れるように努め、被害妄想の強い方には妄想の原因を取り除けるように努め、本人の気持ちを受け止めるようにしている。会話の機会を多く持つ事で本人の意向を把握出来るように努めている。	普段の会話、動作・表情などから思いをくみ取っている。不安な様子が見られる時は、ゆっくりと気持ちを聞いて、安心できるように支援をしている。入浴時や夜間などで職員と1対1になった時は、思いが聞ける。聞いたことは、記録し職員間で共有している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から入居前の暮らしぶりを確認し、ご本人の趣味や1日の流れ、生活環境等入居に至るまでの経過を把握することで、その人らしい生活が継続して送れるよう支援している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録等に一日の様子や流れを記入し、申し送る事で、全職員が確認できるようにしている。また、入居者の変化や気づきに関しては、申し送りノートへの記載で情報を共有している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の意向もお聞きしながら、全職員で入居者の状態や状況からニーズを見つけ、現状に即した介護計画を作れるように意見を出し合いながら作成している。また認知症状の進行等、変化が見られる時はケアカンファレンスで意見を出し合い、介護計画の見直しをしている。	サービス担当者会議を開き、課題分析票を使って介護支援専門員が介護計画書を作成している。3か月、6か月に評価、モニタリングを実施し、変化があれば随時の見直しをしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの提供内容や日々の様子の変化や気づきを、個人記録に記入し、情報を共有することでケアの実践やケアプランの見直しに活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍の中、通常のサービスが思うように出来ない中でも、精神状況・家族の家庭状況等、個々のニーズに合わせた必要と思われるサービスの提供に柔軟に対応したいと出来る範囲での支援に努めるも、実際は限りある事も多くあった。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度もコロナ禍により行事が限定的なものになり、地域住民の方との関りが困難な1年だった。状況が改善次第、入居者の日々の暮らしが少しでも豊かになるような地域資源を活用し支援していきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々の入居者に応じてかかりつけ医を定めており、往診協力を受けている。入居者の体調不良の際は本人及び家族・かかりつけ医と相談し、訪問診療又は受診対応出来ている。	協力医療機関が2か所あり、それぞれ利用開始時に選択して、どちらかをかかりつけ医としている。両方とも訪問診療があり、さらに事業所では看護師を配置している。母体が歯科医で、歯科診療・口腔ケアなど万全の態勢である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職から看護師への情報提供は密にとっており、入居者の体調不良や皮膚の状態等で気付いた事は確実に伝え、程度によってはホームで処置をし、必要であれば受診できるよう支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	安心して治療を続けて頂けるよう、入院先の病院関係者との情報交換を密に行い、本人の状態を把握・確認している。出来るだけ早期に退院し、スムーズに受入れが出来るよう病院関係者との関係づくりにも努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応や終末期のあり方については、入居時にも確認している。ホームでの生活が困難になってきた場合は、主治医・家族と話し合い、隣接の介護付有料老人ホームへの移動も含め、今後の方針を共有しながら支援出来るように取り組んでいる。	看取りの経験はある。グループホームでは体制に限界があり、この事業所では入浴が困難になった時、利用者にとって一番合うところへの住み替えができる支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時に備え、分かりやすいマニュアルが作成しており、どの職員でも対応出来るように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災計画に関しては、運営推進会議や朝日町防災保全課に相談している。年に3回、火災や水害を想定し、同施設内にある介護付有料老人ホームと合同で消防署立ち合いのもと、避難訓練も行っている。	ハザードマップで津波が想定されている。訓練は系列の有料老人ホームと合同で年3回、火災・水害を想定した避難訓練を実施している。緊急時のマニュアルを作成し、事務所内で掲示しているが、近隣や消防団との協力体制の構築が課題である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の個性を尊重し、その方に合った声かけが出来ているか、自尊心を傷つけない声かけが出来ているか、職員間で確認し合い常に実践していけるように努めている。	自尊心を傷つけない言葉遣い、対応に配慮した介護を実践している。羞恥心が伴うこと、異性介助、名前の呼び方などプライバシーを損なわないよう職員間で確認している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活を送るうえで、本人の思いや要望を現わせるように傾聴し、自己決定が出来るような雰囲気づくりを大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望を聞きながら、その方のペースに合わせていけるよう、寄り添った支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日頃から整容に気を配り、その人らしい身だしなみや、本人のおしゃれへのこだわりをいつまでも大切にしてくれるような思いで接している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	会話をしながら食事づくりや後片付けを入居者と職員と一緒にする事で楽しく食事をしてもらっている。	食材は献立も含めて業者委託にしており、調理は職員が行っている。夏は家庭菜園で収穫した野菜も食卓にあがり、季節感が味わえるおやつ作りは利用者の楽しみでもある。準備や食器洗いなど利用者の役割がある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の栄養状態を把握しながら、一人一人の状態に合わせた食事量や水分量の確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士の指導のもと、毎食後、一人一人の口腔状態を確認し、それぞれの能力に応じた口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄間隔や排泄のパターン・状況을把握することで、排泄の失敗や、オムツ(パット)の使用量を減らす等、トイレでの排泄の自立にむけた支援をしている。	布パンツ・リハビリパンツやパット、オムツ使用とそれぞれである。できるだけトイレでの排泄に向けた支援をしている。体調管理もあり、ヨーグルトやバナナ、体操をして排泄を促す支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に応じた運動の取り入れや飲食物の工夫等で便秘予防の取り組みに努めている。状況に応じて主治医の指示にて薬の処方に対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	こちらの都合に合わせるのではなく、入浴回数や入浴時間など、出来る限り本人の希望に沿う事で気持ち良く入浴を楽しんで頂いている。	毎日入浴したい利用者は週5日、拒否される方には週2回の入浴回数で、利用者の希望にあわせて入浴にしている。時間も午前、午後と決めていない。柚子湯や菖蒲湯など季節の移ろいを感じる支援もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの入眠時間が違う為、就寝時間を決めず、一人一人に応じた就寝介助を行う。不眠の方は、夜間に気持ちの良い睡眠が確保できるように日中適度な運動や体操などの活動を増やしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬については、本人の体調の変化に応じて主治医の指示を仰ぎながら、服薬支援を行うなど支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	料理の手伝いが好きな人、食器洗いが好きな人、おしゃべりが好きな人、歌を唄うことが好きな人、野球観戦が好きな人、それぞれが好きな事、得意な事が活かせる場であるよう支援していく。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度もコロナ禍により、家族様との面会にも制限があり、又、外出も思うように出来ず、入居者の方には希望通りの支援が出来ない中、外出の気分を感じて頂くため、庭でおやつ会をしたり、近所への散歩など出来る範囲内での支援を行っている。	広い庭があるので、外気浴をしたり、散歩ができる。時には、庭へ出て一緒におやつを楽しむこともある。	コロナ禍が収束したら、長い期間、事業所から外に出られなかった利用者の外出支援をされるように期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自身で所持することで、安心感であったり、好きな物を購入したいという意欲を維持することも大切であると考えている。本人に管理能力がない方に関しても、いつでも使えるという楽しみは持っていたらよいホーム側が支援・管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナ禍の中、面会が自由に出来ない期間が長かった事もあり、家族と関わりを持てるように、電話で話す機会を増やしたり、字が書ける人には手紙を送れるよう職員が支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には、壁飾り等、季節感を感じていただけるように工夫したり、季節の花を飾ったりして快適かつ落ち着いて過ごせるような環境づくりを提供している。	空気清浄器を置いて、ウイルス除菌・換気に配慮している。利用者は日中リビングで過ごしているが、中には自分の居室で休息をとっている方もある。壁には季節を感じる貼り絵などが飾っており、明るく、清潔感のある空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お互いの居室でくつろいだり、ユニット間を自由に行き来したり、共用空間では、自由に過ごして頂いている。畳スペースなどで独りで昼寝されたりしてお気に入りの場所で過ごして頂けるよう、自由な使い方が出来るように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた家具やご本人の大切にしているものを配置することで、馴染みのある空間で過ごして頂けるように工夫している。	居室から、隣接する幼稚園や田園景色などが見える。整理ダンスなど持ち込まれており、衣類などはクローゼットの中に収納され、壁に写真や自分の作品が飾られて、思い思いの居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレは、その人の使い勝手がいい所を自由に使ってもらい、食堂の席は歩行器や杖歩行の人が動きやすい位置にしたり、気の合う人同士、隣り合うよう工夫している。トイレ・居室・風呂等は分かりやすく表示している。		